



# のびゆく太陽の子

さいたま市立常盤小学校  
令和6年3月1日発行

## 令和6年度 第2回「太陽の子フォーラム」

2月14日(水)第2回「太陽の子フォーラム(学校保健委員会)」を開催しました。体育館にて5年生・保護者の方へ講座を実施していただきました。当日の様子を報告いたします。

### (1)「認知症サポーター養成講座」

浦和区地域包括センターの15名の皆様に講座を実施していただきました。認知症とは誰にでも起こりうる病気であること、また、認知症の症状や特徴をクイズや劇を通して教えていただきました。特に、劇ではよくある場面の良い例、悪い例を演じていただき、具体的な対応を分かりやすく教えていただきました。講座終了後には認知症サポーターの証として、オレンジリングとカードを配付しました。認知症サポーターとは、特別なことをする人ではなく、認知症の人を温かい目で見守る人のことです。自分たちにできることは何かを考える機会となりました。



#### <児童の感想>

- ・認知症の人にはやさしくよりそってあげることが大切で、おどろかせずにしっかり対応していくことが大事だとわかりました。認知症をやわらげるには、周りの人の接し方が関わってくると知ったので、視野を広げてもっと考えてあげたいと思いました。
- ・劇であったように相手のことを考えて話し方を工夫して、困っている人がいたら助けてあげたいと思いました。
- ・今回の学習を通して、認知症サポーターは介護ではなく、ちょっとしたお手伝いだと思いました。決して私たちの生活は縛られず、楽しんでお手伝いのできる、積極的にやっていきたいと思いました。
- ・私には認知症のおばあちゃんがあります。遠くにいるから介護とかはできないけど、電話やプレゼントで、できるだけためになれるようにしていきたいです。

#### <保護者の方の感想>

- ・普段認知症の方と関わる機会が子どもに少なく、家庭でも話題にしたことがありませんでしたが、家に帰ったら、本日の講座を受けてどのように感じたかを子どもと話し合ってみようと思います。
- ・どう接したら良いのか、どうしてあげたら良いのか、手助けしたいけど分からないという人は多いと思います。子どもたちにも理解しやすい説明や劇はとてもよかったと思います。講座をきっかけに気付ける人、思いやれる人みんながなっていけたら良いと思います。

## 「生命(いのち)の安全教育」について

「生命(いのち)の安全教育」とは、文部科学省が全国の学校において推進している、子どもたちが、性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないようにするために、生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切にする考えや、自分や相手、一人ひとりを尊重する態度等を、発達段階に応じて身に付けることを目指すものです。発達段階ごとにねらいがあり、小学校でのねらいは表のとおりです。

発達段階		ねらい(概要)
小学校	低・中学年	自分と相手の体を大切にする態度を身に付けることができるようにする。また、性暴力の被害に遭ったとき等に、適切に対応する力を身に付けることができるようにする。
	高学年	自分と相手の心と体を大切にするを理解し、よりよい人間関係を構築する態度を身に付けることができるようにする。また、性暴力の被害に遭ったとき等に、適切に対応する力を身に付けることができるようにする。

これまでいのちの大切さについては授業でも取り扱っていましたが、令和5年度は、文部科学省の動画教材を視聴したほか、1年生と2年生で「生命の安全教育」に関連付けています。令和6年度は、体育や生活、道徳、学級活動など様々な場面で「生命の安全教育」の内容に触れ、各段階におけるねらいが達成できるよう年間指導計画をたてています。

### 一年生「たいせつなわたしの体」

「自分や他の人の体を大切にするためにできることを考えよう」というめあてで、水着で隠れる部分は自分だけの大切なところであると知ったり、嫌なことをされた時はどのように対処するかを考えたりしました。



### 二年生「わたしのたんじょう」

赤ちゃんが成長する過程をイラストや赤ちゃん人形を使用して学びました。また、生活科で調べた自分の出生についても関連付け、自分が生まれた時、周りの人はどんな気持ちだったかを考え、一人ひとりが大切に育てられた命であること、また周りのお友達も自分と同様に大切に育てられた命であることに気づき、命を大切にすることの重要性を学びました。

